



研究者名※	佐藤亜莉華 SATO Arika	学位※	博士(文学)
所属※	文学部 史学科	職名※	助教
連絡先	satoa@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/asato161823		
研究分野※	人文学／史学／日本史		
研究キーワード※	中世史、近世史、宗教史、史料研究		
共同研究・競争的資金等の研究課題			
社会貢献・産学官連携活動等	醍醐寺(京都府京都市伏見区)をはじめとする近畿地方の諸寺院における文化財調査に参加している。		
受賞歴	2016年3月 成瀬仁蔵先生記念賞 日本女子大学 2017年12月 史艸賞 日本女子大学史学研究会 2022年12月 森村豊明会奨励賞 公益財団法人 森村豊明会 2023年3月 成瀬仁蔵先生記念賞 日本女子大学		

研究領域	日本中世・近世寺院史	(SDGs)
研究テーマ※	醍醐寺にみる真言密教寺院の存続と継承	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 醍醐寺は、貞観十六年(874)聖宝によって開創された、真言密教小野流および修験道当山派の中核寺院である。同寺は現代まで法燈を伝えているが、寺院の存続は決して偶然によって成し得るものではない。多くの人々が、仏法とそれを継承する組織を守ろうとした結果である。中世・近世における同寺に注目し、真言密教寺院がいかにして時代の変革期を乗り越えてきたのかを解明する。研究にあたっては、真言密教寺院の存続要件として「法流」「組織」「史料」の三つを掲げ、これらを中心に考察する。</p> <p>【応用例、研究の展望】 同寺の研究は、古代・中世に主眼を置いたものが先行したため、調査によって膨大な寺院史料の存在が確認されている近世については、未だ詳らかでない。当該期における醍醐三流(三宝院流・理性院流・金剛王院流)の相承や、醍醐寺座主(三宝院門跡)の実態について、今後も検討を進めていく。</p> <p>【研究方法の特色】 第一に、真言密教寺院の社会について、法流相承による師資関係を軸に検証する。第二に、所職・諸役や出身階層等の観点から、一つの組織としての寺院を捉える。第三に、法流と組織の維持を目的として蓄積された史料について、生成・活用・相承を辿ることで、寺院史料群の成立過程に迫る。これらの要素から、中世・近世における醍醐寺の変容を俯瞰することを目指す。</p>	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤亜莉華「三宝院満済と報恩院隆源—法流相承をめぐる—」(『史艸』57号、日本女子大学史学研究会、2016年11月、126-157頁)。 ・佐藤亜莉華「醍醐寺僧と根来寺僧の交流とその変容」(『日本女子大学大学院文学研究科紀要』27号、2021年3月、59-76頁)。 ・佐藤亜莉華「南北朝期から室町前期における理性院流と太元帥法別当職の相承—理性院宗助と大覚寺證菩提院光覺の対立—」(永村眞編『中世寺院の仏法と社会』勉誠出版、2021年、60-90頁)。 ・佐藤亜莉華「醍醐寺における法流相承と文書・聖教の生成—報恩院隆源を通して—」(『古文書研究』91号、2021年6月、1-20頁)。 ・佐藤亜莉華「金剛王院流の醍醐寺座主輩出と世俗権力」(『ヒストリア』291号、2022年4月、1-24頁)。 	
共同研究・外部機関との連携への期待		